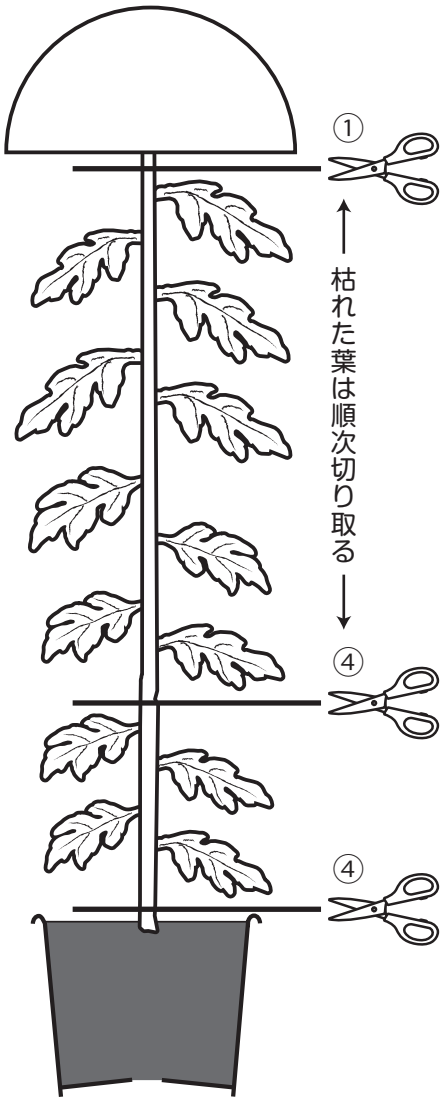
ミニ情報

来年の優秀花につながる花後の管理

花が咲き終わると“ひと息”となりがちですが、すでに来春の菊つくりは始まっています。花後の管理は優良なサシ穂を取る為には非常に大切な作業です。サシ穂は“苗の良し悪し”には重要な位置づけとなります。
またどの株を親株に残すかは翌年の優秀花をめざす為には極めて重要です。
菊は毎年多少の“芽変わり”することはめずらしいことではありません。優秀花を咲かせた“株”から取った苗は優秀花を咲かせる可能性は高いと言えます。
よって来年の苗取りは今年優秀な花を咲かせた株を最優先することは最重要です。

―― 花後の管理手順 ――



① 花が終わったら早めに花を花首からやや下で切り落とす。

② 花を咲かせた後は体力が消耗している為、液肥を与え、草勢回復を図る。こうすることでお礼肥の効きめが良くなる。液肥 500 ～ 1000 倍で 2 ～ 3 日間隔で 2 ～ 3 回与える。（おすすめは「みらい、アミノＰ．K、アミノスーパー 631」などアミノ酸の含有量の多いもの）

③ お礼肥（乾燥肥料） 大サジ 1 杯ずつ 3 カ所に与え、軽く土をかぶせる（生長期の量よりやや少なめで）（おすすめは「菊養源、名彩輝」）

④ 株切り：“葉ッパの枚数”が減り光合成が低下し、肥料の吸収力や体力の回復が遅れる為にできる限り遅らせて切ります。
すでに冬至芽が発生している場合は 30 ～ 50 センチ残し上部を切る。
枯れた場合は地際から切る。枯れた葉を放置すると病害虫を越冬させる原因になる。

⑤ 冬至芽の間引き：冬至芽は株元近くに発生するものや、鉢の外周に発生するものがあります。
株元に発生するほど弱い為、外周に発生するものを育て使用します。

⑥ その他注意すること
- 肥料は乾燥肥料を月 1 回を目安に与えます。
- 水掛けは一週間に一回程度を目安に与えます。
- 株切りが終了したら病害虫を越冬させないよう入念に消毒を行います。（発生が多い場合は培養場全体を消毒）
- サシ芽箱を置く場所も消毒します（立ち枯れ予防）
- 最低一ヶ月以上は寒さに当てるようにする。
- ウイルスなどの発生した株は使用しない。

来年も見事な花が咲きますように

2023 年 11 月吉日

ウチダケミカルコーポレイション

お申込み･お問い合せは
ウチダケミカルコーポレイション
Tel.029-869-1777　Fax.029-869-1666
〒300-4204　茨城県つくば市作谷1711-12　郵便振替　00820−6−96628